

内外彙報

東北帝國大學に於ける雪村遺品の展覧 東北帝國大學史學會に依つて六月一日二日の兩日、同大學内に於て東北地方出土古瓦の展覧を兼ねて、雪村作遺品の陳列を催した。右古瓦の陳列は奈良朝より平安朝に至るまで、所謂王朝時代の東北地方に於ける寺社其他の古瓦數百點に就いて、是れを系統的分類的に配列し、併せて内藤政恒氏の講演があつた。不幸にして筆者親しく是れが精鑑の餘暇を得ず、割愛するの止むなきに至つたが、雪村遺品の陳列に就いては、福井利吉郎教授の『東北人雪村』と題する講演と共に最も興味ある展覧であつた。出陳の實蹟は

官 女 圖 (津輕家傳來)	絹本着色	中村富次郎氏藏
竹 雀 圖	紙本水墨	益田 孝氏藏
月夜山水圖 (佐竹家傳來)		秋田 伊勢傳一氏藏
鷹山水圖	紙本水墨 六曲屏 雙	水戸 中村忠兵衛氏藏
神 農 圖	紙本水墨	會津 森川善兵衛氏藏

の五點に過ぎなかつたが、別に多數の寫眞を陳列し、同氏講演用參考印刷物中に、是れ等の作品の年代的分類を試みられたなど觀者を啓發する所が多かつた。而して實蹟中、鷹山水圖、神農圖の如き斯の人中期以降の畫蹟は自ら獨自の奇古の様式を成すもの、一種の偉製として素より多く言ふを須ひないが、最も吾々の興味を索いたものは教授の所謂前期(太田邊垂時代)作品としての彩色官女圖であつた。一見、唐繪寫しとも見ゆる風俗圖の一種で、斯の人の遺品として最も品鑑に困難な様式の作品であるが、中期以降の畫蹟に一味の共通點を有すると共に、稀に雪村畫中に見る白文方印周繼の印記を見るもの、また疑ふべきでない。(田中)

源氏物語繪卷展覧 去六月一日より三日間、東京帝室博物館に於て、侯爵徳川義親氏所藏の源氏物語繪卷の展覧が行はれた。右は人皆の知る如く、隆能源氏の名をもつて呼稱され、益田孝氏所藏の一本と共に、本邦繪卷物中最古至上の名品、その濃彩無比なつくりゑの齎らす藝術境の至醇なること今更説くまでもない。從來門外不出の祕寶なりしも、今回徳川侯の高き理解の下に、斯界の權威田中親美氏の周到なる技術によつて分離改裝され、繪十五紙、詞廿八紙通計四十三紙を桐箱に納め、隨時取はづし原形に復し得るに至つたと同時に田中親美氏の多年の努力になれる副本が完成され、こゝに公開の欣に接したのである。

展舒するに彩色剝落の氣遣はれる古き繪卷を萬全に保護せんとして、かゝる細心なる保存法を講じ、且之を公開して斯界の研究に供せられた所藏家の深き理解に對し、吾人は滿腔の敬意を捧ぐるものである。されど同展覧の公開日僅少なりし爲に、觀覽者が一時に殺到し、之を靜かに品鑑する時の興へられなかつたのは遺憾であつた。(菅沼)

美術研究所時報

美術懇話會は六月二十二日鹽原又策氏邸に於て開催され、同家蒐藏に係る日本陶磁器、古九谷、鍋島燒、及び仁清、柿右衛門等の作品中國寶、重要美術品に指定されたものを初め、精選された名品と、歐洲諸國に於る柿右衛門摸作品とを併せて觀覽した。